

全体ダイアグラム

■ 事務 ■ 人の空間 ■ 本の空間 ■ ゲート管理外 ■ 書庫

事務動線の再構成

現在、分散配置されている事務中枢機能をメインフロアに設ける。
 受付からの荷解き作業、データ処理、各研究室や書架への分配までの一連の本の動線を短縮する。
 この動線を中心にサービス課管理課オフィスを配置する。
 カウンターは管理空間の外にまたがるかたちになる。

人の空間本の空間

人が活動する空間は本が置かれるべき静的な空間とは質が違ふと考え、開放的で流動的な空間を用意する。既存の空間が本の場所となり、その周辺に閲覧などの活動をともなう人の空間が広がる。

キャンパスの中心としての図書館像

これからの図書館は資料を提供するという機能だけでなく居場所、活動場所としての「場」を提供するものである。
 学生の主体的な活動を支えるために24時間開放を考慮した自由に利用できる「場」を用意する。

メディアオフィス

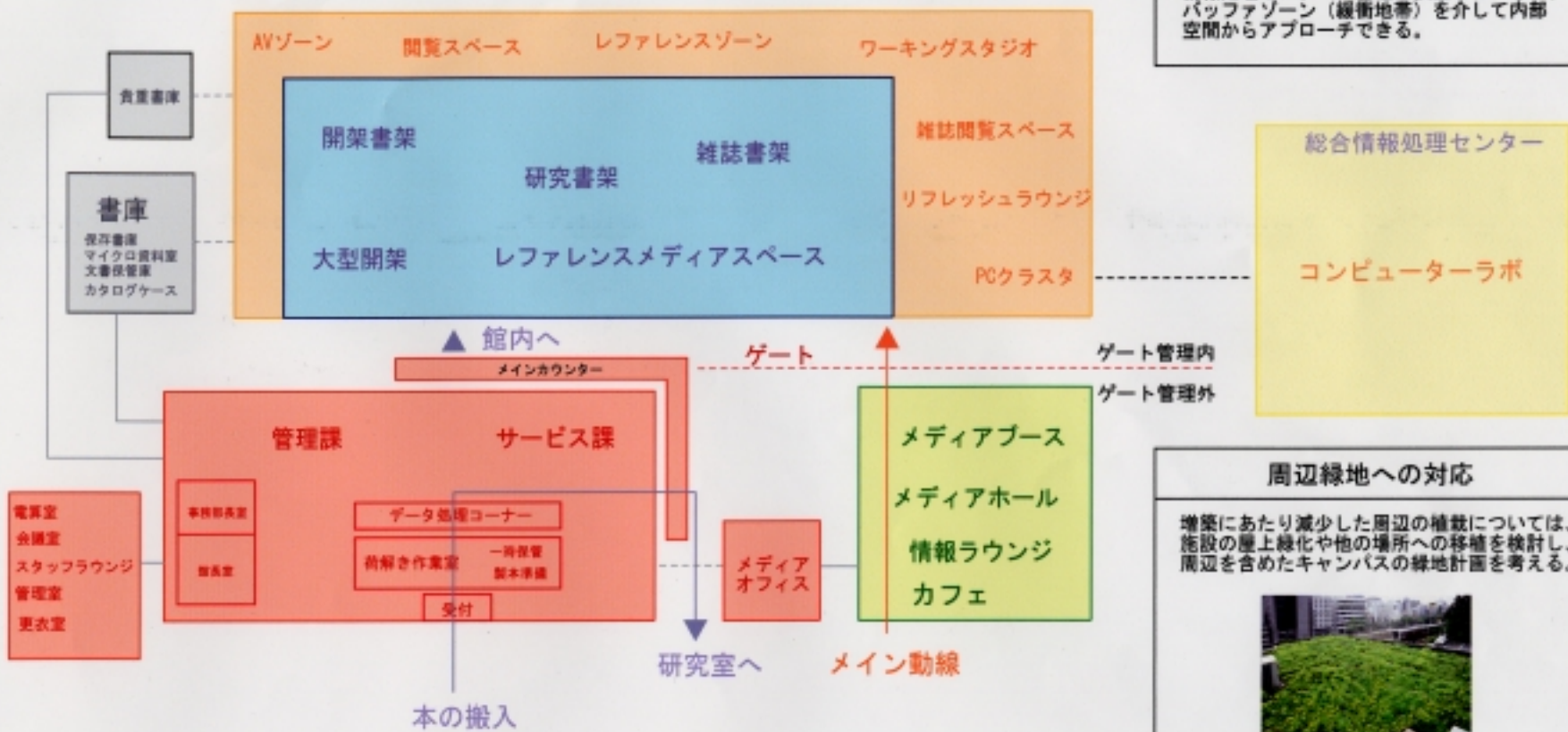
管理のアネックスとして、当面はTAやメディアホール控え室、非管理区域やゲートを管理する。将来24時間開放する時には、管理の核となる。

ID管理システム

現在のID管理システムを拡張しJDカードに以下の機能を持たせる。
 ・メディアブースの予約、エントリー
 ・利用状況のデータベース化の促進

総合情報処理センターとの関係

情報処理センターの管理は独立しているが、バッファゾーン（緩衝地帯）を介して内部空間からアプローチできる。



周辺緑地への対応

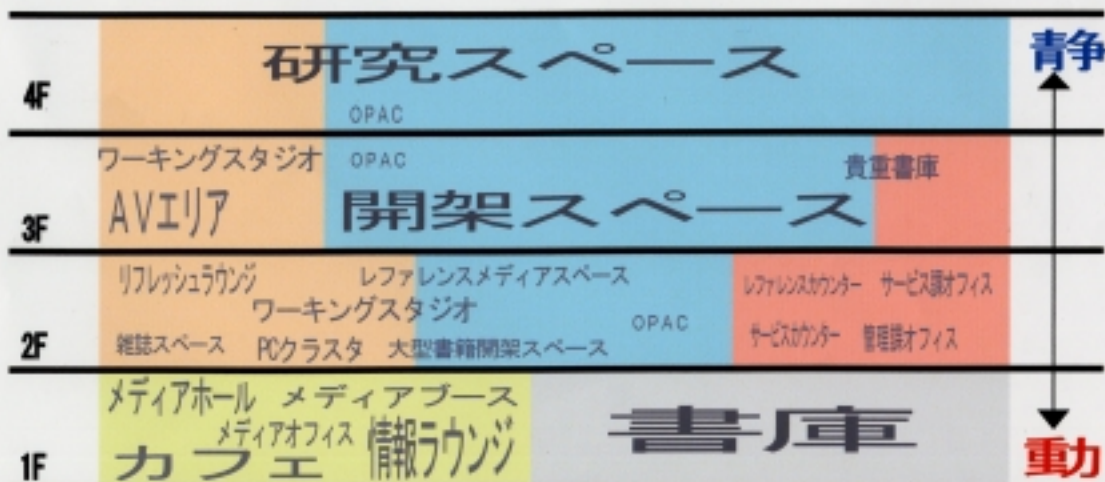
増築にあたり減少した周辺の植栽については、施設の屋上緑化や他の場所への移植を検討し、周辺を含めたキャンパスの緑地計画を考える。



屋上緑化イメージ

断面ダイアグラム

フロアごとに空間の質を決める



アカデミックフロア

研究者向けの書架と閲覧フロア。静かでくつろぎながら、閲覧ができる。3階の研究閲覧スペースと空間的に連続性を持つ。人文系の専門書も収められる。

ラーニングフロア

主に開架が中心を占める一般的な図書館利用のフロア。静かな環境で閲覧やAVの視聴などができる。

アクティブフロア

図書館のメインフロア。メインゲート、メインカウンターがある。ゲート内でも飲食ができるリフレッシュラウンジをはじめ活動的な場となり、視覚的に全体が見渡せる開放的な空間。

フリーフロア

主な空間はゲート管理外にあり、学生が自由に出入りできる。メインストリートと一体的に利用される。将来的に、24時間開放のエリアとして想定。